

世界トップレベルの研究拠点づくりについて

平成 18 年 11 月 21 日

阿部博之
薬師寺泰蔵
柘植綾夫
本庶田玲悦
黒山山優一
庄原金澤彦
金子山澤一郎

イノベーションを起こすには、その出発点である大学等の基礎研究の機能を格段に高め、国際競争力を強化する必要がある。そのためには、世界トップレベルの研究拠点を、従来の発想にとらわれることなく構築し、世界の頭脳が集い、優れた研究成果が生み出される「場」を我が国に作っていく必要がある。「世界から見える」「オープン」を基本として、以下に掲げる事項を考慮しながら、更に検討を進める。

1. 世界から注目されている研究者やその集団を核に、「人」を重視して、一定規模以上の拠点形成計画を選定すること。その際、研究者の核が存在する大学等（ホスト）内又はその周辺に中核拠点を設けるが、他の大学や研究開発型独立行政法人等（サテライトなど）との有機的連携や施設・設備の有効活用などにより、拠点全体の機能の強化を図ることが望ましい。
2. 従来の制度や慣習にとらわれないシステム改革に取り組み、世界トップレベルの研究拠点の構築を行うこと。具体的には、
 - (1) 世界から注目されている研究者を専任の拠点リーダーとし、サテライトも含めた予算配分・人事などの権限を付与するなど、トップダウン的に運営すること。また、拠点の運営については、ホスト大学等の意思決定システムから独立性を持たせるとともに、ホスト大学等は必要な支援体制を整えること。

- (2) 研究者が研究に専念できるよう、事務部門も含めた強力な支援体制を設けるとともに、英語での研究環境を必須とすること。
- (3) 業績評価反映の年俸制、研究者の国際公募に取り組むとともに、優れた外国人研究者を3割程度以上確保するよう取り組むこと。
- 3 . 分野は、世界に通用するポテンシャルのある分野、世界に通用するポテンシャルのある複数の分野の融合領域、共通基盤的な分野で世界に通用するレベルにすることが不可欠な分野とし、ある程度の幅を持ったものを選定すること。
- 4 . 研究拠点としては、一定の規模を維持した上で、適切な数を確保すること。
- 5 . 達成目標を明確化した上で、10～15年程度を目途に拠点形成を図ることとし、5年毎に、国際性にも留意した評価を行うこと。
- 6 . 外形的な基準を取り入れるなど、選定基準の明確化を図りつつ、総合科学技術会議のリーダーシップの下で、引き続き具体化を進めること。

なお、本事業は、先導的なモデル事業として実施するものであることから、その成果や取組については、他の研究機関にも広めていくよう努めるべきである。